

I. 導入

おはようございます。今日、私は皆さんに聖書の探偵になることをお勧めしたいと思っています。シャーロック・ホームズの小説を読んだことはありますか。名探偵コナンはお好きですか。または、夜遅くまでアガサ・クリスティーの小説を読んで、ミス・マーブルを応援したことはありませんか。探偵小説が好きな人は多いでしょう。しかし、小説の世界を楽しむだけにとどまらず、私たちが自分で事実の確認をしなければならないときがあります。これについては、後でもう少しお話ししましょう。



今日、私たちは使徒17章に入ります。パウロは第二次宣教旅行の最中です。使徒16章の終わりでは、パウロとシラスがフィリピを離れたところでした。フィリピでは困難もありましたが、多くの実りがありました。彼らは投獄されましたが、主が地震を起こしてふたりを自由にされました。看守とその家族がそこで信仰を持ち、洗礼を受けました。ふたりはギリシア北部へと旅を続けます。いくつかの町を通して、大都市テサロニケに着き、そこで伝道しました。テサロニケからはベレアも訪れました。



使徒17:1-9から、テサロニケでのできごとについて読みましょう。

II. 聖書朗読 (使徒言行録17:1-9, 新共同訳)

17:1 パウロとシラスは、アンフィポリスとアポロニアを経てテサロニケに着いた。ここにはユダヤ人の会堂があった。17:2 パウロはいつものように、ユダヤ人の集まっているところへ入って行き、三回の安息日にわたって聖書を引用して論じ合い、17:3 「メシアは必ず苦しみを受け、死者の中から復活することになっていた」と、また、「このメシアはわたしが伝えているイエスである」と説明し、論証した。17:4 それで、彼らのうちのある者は信じて、パウロとシラスに従った。神をあがめる多くのギリシア人や、かなりの数のおもだった婦人たちも同じように二人に従った。17:5 しかし、ユダヤ人たちはそれをねたみ、広場にたむろしているならず者を何人か抱き込んで暴動を起こし、町を混乱させ、ヤソンの家を襲い、二人を民衆の前に引き出そうとして搜した。

17:6 しかし、二人が見つからなかったので、ヤソンと数人の兄弟を町の当局者たちのところへ引き立てて行って、大声で言った。「世界中を騒がせてきた連中が、ここにも来ています。17:7 ヤソンは彼らをかまっているのです。彼らは皇帝の勅令に背いて、『イエスという別の王がいる』と言っています。」17:8 これを聞いた群衆と町の当局者たちは動揺した。17:9 当局者たちは、ヤソンやほかの者たちから保証金を取ったうえで彼らを釈放した。

III. 教え

古代ローマの都市テサロニケの大部分は、現代の市街地の下に眠っており、発掘された遺跡は少数のみです。この写真は、以前バスの車庫だった場所です。バスの車庫が1962年に移転し、その後考古学者たちによってローマの公衆浴場や造幣局などの建物が発掘されました。それらの建造物は、パウロがこの地を訪れた時代にさかのぼるといいます。



フィリピからテサロニケまで、徒歩で3日間ほどの行程だったでしょう。途上、パウロとシラスはアンフィポリスとアポロニアで宿泊しましたが、そこでは留まって宣教しなかったようです。ふたりはテサロニケへと足を進めました。そこには、ユダヤ教の会堂があったのです。パウロはそこで三週にわたって安息日に語り、イエスを信じる者を数多く勝ち取りました。そこから事件が起こります。

使徒17:5a 「しかし、ユダヤ人たちはそれをねたみ、広場にたむろしているならず者を何人か抱き込んで暴動を起し、町を混乱させ、」 少数のユダヤ人と大勢のギリシア人が信仰を持ち、パウロやシラスとともにイエスを信じるようになりました。残念ながら、パウロが伝道に成功したことに、ユダヤ人たちが嫉妬しました。そこでパウロを追い出す作戦を企てたようです。町のごろつきを集めて暴動を起し、その混乱をクリスチャンのせいにしたのです。

使徒17:5b 「ヤソンの家を襲い、二人を民衆の前に引き出そうとして捜した。」 パウロとシラスはそのときそこにいませんでしたが、ユダヤ人がヤソンの家にふたりを探しにいったのですから、そこに滞在していたのでしょう。伝承によると、このヤソンは、ルカ10章でイエスが送り出した70人の弟子のひとりで、ローマ16:21にパウロの同胞として挙げられているヤソンと同一人物だといえます。ヤソンはパウロと同じくタルソスの出身で、パウロによってタルソスの司教に任命されました。ヤソンは殉教者となり、カトリックや正教会では、タルソスの聖ヤソンとして知られています。

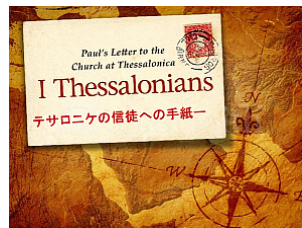


会堂に属する嫉妬に燃えたユダヤ人たちに先導され、群衆がパウロとシラスを探しに来ました。**使徒17:6** 「しかし、二人が見つからなかったので、ヤソンと数人の兄弟を町の当局者たちのところへ引き立てて行って、大声で言った。『世界中を騒がせてきた連中が、ここにも来ています。』」 パウロとシラスはイエスの愛を分かち合い、救いの良き知らせを語っただけです。それ以外何もしていないのに、イエスを拒む者からすれば、クリスチャンは騒ぎを起こす邪魔者なのです。福音が人に罪の悔い改めを迫るからです。

彼らはこのように責めました。「世界中を騒がせてきた連中が、ここにも来ています。」 この言葉から、クリスチャンがすでにローマ帝国内で影響力のある存在だったことがわかります。リビングバイブルには、「世界中をひっくり返してきたパウロとシラスが、今この町でも騒ぎを起こしているのを。」とあります。ふたりは、世界中をひっくり返したと言って責められていま

す。けれども実際には、世の中がずっと上下ひっくりかえった状態でした。イエスに従うクリスチャンはただ、神の御力と愛と恵みによって、上下逆さまだった世界を正しい状態へとひっくり返そうとしているだけです。

ところで、パウロによるテサロニケの信徒への手紙第一は、新約聖書の中で最初に完成されたものだと聖書学者の多くが考えています。パウロがこのテサロニケの信徒への手紙第一を書いたのは、おそらく紀元51年です。パウロはなるべく早く手紙を送りたかったのでしょう。短い期間しかともにて教えることのできなかつた新しい信徒たちを励ますためです。パウロはこの手紙でさまざまな題材を取り上げていますが、特に強調されているのは、きよい生き方について、そしてイエスの再臨に備えることについてだと言えるでしょう。



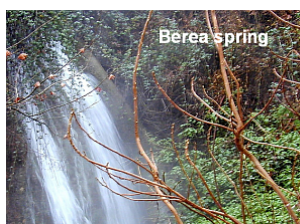
では続いて、使徒17:10-15を読みましょう。

IV. 聖書朗読 (使徒言行録17:10-15, 新共同訳)

17:10 兄弟たちは、直ちに夜のうちにパウロとシラスをベレアへ送り出した。二人はそこへ到着すると、ユダヤ人の会堂に入った。17:11 このユダヤ人たちは、テサロニケのユダヤ人よりも素直で、非常に熱心に御言葉を受け入れ、そのとおりかどうか、毎日、聖書を調べていた。17:12 そこで、そのうちの多くの人が信じ、ギリシア人の上流婦人や男たちも少なからず信仰に入った。17:13 ところが、テサロニケのユダヤ人たちは、ベレアでもパウロによって神の言葉が宣べ伝えられていることを知ると、そこへも押しかけて来て、群衆を扇動し騒がせた。17:14 それで、兄弟たちは直ちにパウロを送り出して、海岸の地方へ行かせたが、シラスとテモテはベレアに残った。17:15 パウロに付き添った人々は、彼をアテネまで連れて行った。そしてできるだけ早く来るようにという、シラスとテモテに対するパウロの指示を受けて帰って行った。

V. 教え

ベレアとは「水の多い場所」という意味です。ベレアはきっと美しい町だったことでしょう。現代のギリシャにあるヴェロイアという町は、古代ベレアの頂上に位置する人口約66,000人の町です。ヴェロイアには多くの教会があり、そこに住むクリスチャンのルーツは、パウロとシラスの訪問にあります。パウロの宣教の働きを記念した芸術作品がこの町には点在します。これはその一例で、屋外にある壁画の写真です。そこにはパウロがベレア人に語っている様子が描かれています。

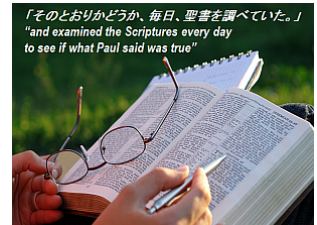


今朝冒頭で、皆さんに聖書探偵になるようお勧めしたいと申しました。具体的には、ベレア人の模範に倣うことをお勧めします。使徒17:11



での彼らの行動を見てみましょう。「このユダヤ人たちは、テサロニケのユダヤ人よりも素直で、非常に熱心に御言葉を受け入れ、そのとおりかどうか、毎日、聖書を調べていた。」ベレアの会堂にいたユダヤ人と異邦人は、テサロニケの人々とはずいぶん性質が違いました。ベレアでは、人々はパウロの言葉を熱心に受け入れました。皮肉を言ったり人々が分裂したりという気配はありません。ベレア人は注意深くもありました。パウロが語った後、聖書を入念に調べて、パウロの言葉が本当かどうか確かめたのです。

彼らは、「そのとおりかどうか、毎日、聖書を調べていた。」これは、私たちも見習うべき模範です。聖書の教えや説教を聞いて疑ったりひねくれた捉え方をしたりするのはよくありません。けれども、すべて受け身もよくありません。しっかり聞いて、聞いたことが本当かどうか一生懸命学ぶべきです。自分で聖書を調べると、教会で聞いたことを再確認し、そのメッセージの信ぴょう性を裏付けることができます。どんな牧師も説教者も完璧ではありません。間違えることもあります。私も間違えることがあります。だから、常に確認するのがよいのです。自分で聖書を学ぶ良い習慣がつくと、日曜のメッセージをただ聞いているだけに比べてずっとはやく、信仰と知恵において成長できます。



パウロが語り、ベレア人が毎日聖書を調べて、そのとおりかどうか確認しました。パウロがベレアで語った内容の詳細はわかりませんが、おそらくテサロニケで語ったことと似た内容だったでしょう。使徒17:2b-3にはこうあります。「聖書を引用して論じ合い、『メシアは必ず苦しみを受け、死者の中から復活することになっていた』と、また、『このメシアはわたしが伝えているイエスである』と説明し、論証した。」新約聖書はまだ書かれていませんでした。ですから、パウロがここで引用したのは旧約聖書です。そうやって、イエスこそ、この世の初めから預言者たちの語り継いだキリスト、つまり待ち望まれたメシアであることを論証しました。

パウロがベレアの人々に語ったのは、福音です。これはきっと、ユダヤ人にも異邦人にも大きな喜びをもたらしたことでしょう。それでも彼らは、イエスがメシアだという主張を注意深く検証する必要があると思いました。私たちも、よそから巡回伝道師や説教者が来たときは注意しなければなりません。そのメッセージを熱心に受け入れる姿勢を持ちたいものですが、同時ににせ教師やにせ預言者に気をつける必要があります。

ベレア人はイエスについてのパウロの言葉を熱心に受け入れ、それと同時に聖書を調べました。私たちもこの例に倣い、聖書探偵になりましょう。聖書の中に真理を探し求めるのです。手始めに、今朝の週報に、預言のいくつかを書き出した表が入っています。これは、イエスが待ち望まれたメシアだということを証明するために、パウロがベレア人にも分かち合った可能性のある個所です。このプリントには、預言が成就したことを記す新約聖書の参照個所も載っています。ここにある個所をしっかりと読みましょう。そうすれば、あなたも聖書探偵への第一歩を踏み出します。ここに挙げたのは、イエスが成就した預言のほんの一例です。こういった預言の成就是、イエスがキリスト・メシアであられる動かぬ証拠です。

ベレア人は喜んで福音を聞きましたが、キリストに敵対する者がまたしてもすぐに現れま

した。使徒17:13「ところが、テサロニケのユダヤ人たちは、ベレアでもパウロによって神の言葉が宣べ伝えられていることを知ると、そこへも押しかけて来て、群衆を扇動し騒がせた。」このことがあって、パウロはアテネに向かいました。一方、シラスとテモテはベレアに留まり、続けて信徒たちを教えました。

後に、パウロはテサロニケの信徒への手紙の中で、このように信徒たちを励ましています。テサロニケ第一5:16-21:「5:16 いつも喜んでいなさい。5:17 絶えず祈りなさい。5:18 どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。5:19 “霊”の火を消してはいけません。5:20 預言を軽んじてはいけません。5:21 すべてを吟味して、良いものを大事にしなさい。」パウロはベレアを特定して挙げてはいませんが、パウロがこの言葉を書いたとき、ベレアの信徒たちのりっぱな姿勢を思い描いていたのではと思います。

「すべてを吟味して、良いものを大事にしなさい。」すべてを神のみことばに照らして十分に吟味するのはとても大切なことです。教会で耳にすることだけではなく、私たちが慣れ親しんだ文化や世界観についてもそうです。自国の信念や習わしは問答無用で受け入れるものだと考えがちですが、実際はすべてのことを吟味するべきです。悪いものは拒み、良いものは純金のようにしっかり握っているべきです。



もし、100年前から先祖代々受け継がれた金の指輪をもらったら、家宝としてだいにするでしょう。でも鑑定しなければそれが本物の金かどうかはわかりません。指輪の場合、売る気がなければ本物の金かどうかはあまり関係ないかもしれません。けれども、命に関わる問題では、つまり救いと永遠の命についての教えに関しては、すべてを十分吟味することが肝要です。私たちが死ぬとき、自分の心に持っているのが真理の純金なのか、人間の知恵というメッキなのか、または悪魔のささやく偽りなのか、神によって試されます。ですから、自分の持っているのが真理であることを確認して、その日に備えましょう。

教会でも気をつける必要があります。パウロがテモテ第二4:3で警告したような罠にはまってしまった教会も中にはあります。「だれも健全な教えを聞こうとしない時が来ます。そのとき、人々は自分に都合の良いことを聞こうと、好き勝手に教師たちを寄せ集め、」私たちは良い聖書探偵になって、すべてを吟味し、良いものを大切にしなければなりません。

VI. 結び

メッセージの締めくくりとして、イエスの死と復活について明確に語る旧約聖書の預言をいくつか一緒に読みましょう。詩篇22篇は、十字架刑についての詳細な預言です。十字架から見下ろすイエスの視点で書かれています。詩篇22:16-18「22:16 まことに、犬はわたしをめぐり、悪を行う者の群れがわたしを囲んで、わたしの手と足を刺し貫いた。22:17 わたしは自分の骨をことごとく数えることができる。彼らは目をとめて、わたしを見る。22:18 彼らは互にわたしの衣服を分け、わたしの着物をくじ引にする。」(口語訳)

イエスの復活について語る預言のひとつに詩篇16:9-10があります。「そこで、私の心は喜びあふれ、私も安心してすることができます。あなたは、私を墓に放り出しておかず、あなたの聖い方を朽ちゆくままにはおかせません。」(現代訳) イエスは死んで葬られました。けれども、墓に放っておかれず、遺体も腐りませんでした。それは、このお方が三日後に死からよみがえられたからです。

最後に、偉大な預言の個所として、イザヤ書53章が挙げられます。これはその一部です。イザヤ53:5-6 「53:5 彼が刺し貫かれたのはわたしたちの背きのためであり彼が打ち砕かれたのはわたしたちの咎のためであった。彼の受けた懲らしめによってわたしたちに平和が与えられ彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた。53:6 わたしたちは羊の群れ道を誤り、それぞれの方角に向かって行った。そのわたしたちの罪をすべて主は彼に負わせられた。」

これらの預言が与えられ記されたのは、イエスがお生まれになる何百年も前のことです。そのすべてをイエスはご自身の生と死、復活によって成就されました。イエスは真の救い主、メシア、キリストです。皆さんも聖書探偵になってその証拠を確認すれば、イエスが主であり神であることがわかるようになりますと私は確信しています。私たちは人間です。私たちの言動が、神の基準に達することはありません。迷える羊のように、自分の帰るべき道を見つけることができません。けれども、イエスは私たちの偉大な牧者であります。このお方を呼び求めれば、力強い御腕で私たちを御許に引き寄せてくださいます。



祈りましょう。

VII. 祈り

イエスの死や復活に関する預言	旧約聖書の預言 (降誕の何百年前に書かれた)	新約聖書の成就記録
1. 侮辱され、捨てられた	イザヤ書53:3 彼は軽蔑され、人々に見捨てられ／多くの痛みを負い、病を知っている。彼はわたしたちに顔を隠し／わたしたちは彼を軽蔑し、無視していた。	マタイ27:30-31 また、唾を吐きかけ、葦の棒を取り上げて頭をたたき続けた。このようにイエスを侮辱したあげく、外套を脱がせて元の服を着せ、十字架につけるために引いて行った。
2. 友人に裏切られた	詩編41:10 わたしの信頼していた仲間／わたしのパンを食べる者が／威張ってわたしを足げにします。	マルコ14:10, 十二人の一人イスカリオテのユダは、イエスを引き渡そうとして、祭司長たちのところへ出かけて行った。
3. 銀貨三十枚で売られた	ザカリヤ書11:12, わたしは彼らに言った。「もし、お前たちの目に良しとするなら、わたしに賃金を支払え。そうでなければ、支払わなくてもよい。」彼らは銀三十シケルを量り、わたしに賃金としてくれた。	マタイ26:15, 「あの男をあなたたちに引き渡せば、幾らくれますか」と言った。そこで、彼らは銀貨三十枚を支払うことにした。
4. その銀貨は、陶器職人の畑を買うために使われた	ザカリヤ書11:13, 主は私に仰せられた。「彼らによってわたしが値積もりされた尊い価を、陶器師に投げ与えよ。」そこで、私は銀三十を取り、それを主の宮の陶器師に投げ与えた。(新改訳)	マタイ27:6-7, 祭司長たちは銀貨を拾い上げて、「これは血の代金だから、神殿の収入にするわけにはいかない」と言い、相談のうえ、その金で「陶器職人の畑」を買い、外国人の墓地にすることにした。

5. 告訴された時に黙っていた	イザヤ書53:7 苦役を課せられて、かがみ込み／彼は口を開かなかった。屠り場に引かれる小羊のように／毛を切る者の前に物を言わない羊のように／彼は口を開かなかった。	マタイ26:62-63a そこで、大祭司は立ち上がり、イエスに言った。「何も答えないのか、この者たちがお前に不利な証言をしているが、どうなのか。」イエスは黙り続けておられた。
6. 唾を吐きかけ、殴られた	イザヤ書50:6 打とうとする者には背中をまかせ／ひげを抜こうとする者には頬をまかせた。顔を隠さずに、嘲りと唾を受けた。	マルコ 14:65 それから、ある者はイエスに唾を吐きかけ、目隠しをしてこぶしで殴りつけ、「言い当ててみる」と言い始めた。また、下役たちは、イエスを平手で打った。
7. 罪人と共に、死刑された	イザヤ書53:12 それゆえ、わたしは多くの人を彼の取り分とし／彼は戦利品としておびたしい人を受ける。彼が自らをなげうち、死んで／罪人のひとりに数えられたからだ。多くの人を過ちを担い／背いた者のために執り成しをしたのは／この人であった。	マタイ27:37-38 イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王イエスである」と書いた罪状書きを掲げた。折から、イエスと一緒に二人の強盗が、一人は右にもう一人は左に、十字架につけられていた。
8. 手と足を刺し貫いた	詩編22:16 まことに、犬はわたしをめぐり、悪を行う者の群れがわたしを囲んで、わたしの手と足を刺し貫いた。(口語訳)	ヨハネ20:25 そこで、ほかの弟子たちが、「わたしたちは主を見た」と言うと、トマスは言った。「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない。」
9. あざけられ、辱められた	詩編22:7-8 わたしは虫けら、とても人とはいえない。人間の屑、民の恥。わたしを見る人は皆、わたしを嘲笑い／唇を突き出し、頭を振る。	マタイ27:42-43 「他人は救ったのに、自分は救えない。イスラエルの王だ。今すぐ十字架から降りるがいい。そうすれば、信じてやろう。神に頼っているが、神の御心ならば、今すぐ救ってもらえ。『わたしは神の子だ』と言っていたのだから。」
10. 服はくじ引きで分けられた	詩編22:19 わたしの着物を分け／衣を取ろうとしてくじを引く。	マルコ15:24 それから、兵士たちはイエスを十字架につけて、／その服を分け合った、／だれが何を取るかをくじ引きで決めてから。
11. 金持ちと一緒に葬られた	Isaiah 53:9 53:9 彼は不法を働かず／その口に偽りもなかったのに／その墓は神に逆らう者と共にされ／富める者と共に葬られた。	マタイ27:57-60b 夕方になると、アリマタヤ出身の金持ちでヨセフという人が来た。この人もイエスの弟子であった。この人がピラトのところに行って、イエスの遺体を渡してくれるようにと願い出した。そこでピラトは、渡すようにと命じた。ヨセフはイエスの遺体を受け取ると、きれいな亜麻布に包み、岩に掘った自分の新しい墓の中に納め、
12. 復活された	詩編16:9-10 そこで、私の心は喜びあふれ、私も安心していことができます。あなたは、私を墓に放り出しておかず、あなたの聖い方を朽ちゆくままにはおかれませんか。 (現代訳)	マタイ28:5-6 天使は婦人たちに言った。「恐れることはない。十字架につけられたイエスを捜しているのだろうが、あの方は、ここにはおられない。かねて言われていたとおり、復活なさったのだ。さあ、遺体の置いてあった場所を見なさい。